会員へのお願い

会費の全員納入とあわせて寄付金を

寄付金の全額を、研究教育支援基金として学生支援のために使っています

会費納入促進G

坂本泰一(平成2年物工卒) 本間昭弘(昭和44年2部応化卒)

はじめに

昨今、同窓会の役割が、従来の卒業生の懇親会的 位置づけから、大きく変化しています。すなわち、 法人としての大学への参加協力、学生への具体的支 援の比重が大きくなってきています。

私たち卒業生は、これらの変化を敏感に受け止めての活動が必要です。そのために、会費納入とともに、寄付金の役割も理解して、いっそうの御協力をお願いいたします。

(現状)

①同窓会の運営

平成27年度より、新入学生から。入学時に同窓会会費(3万円)を納入していただく制度が始まりました。それによって、同窓会の通常会計は、収支の改善が有利な方向になる見通しを期待しています。しかし平成27年度の納付率は約45%の低さでした。納付率向上のアピールと対策が必要です。

②研究教育支援基金

平成26年度より、国大化学会研究教育支援基金の働きにドクターコーススタートアップ支援金として、30万円(/人)支給が設置され、平成27年度は1名、28年度は1名に支給済です。

その他、例年支給している、学会参加会費助成、 歓迎会賛助金、成績優秀生への図書カード、OB訪 問交通費支援、就職準備支援懇談会支援等、多くの 支援を実施中です。

(対策)

①会費納入率の向上

会費納入はこれまで以上の努力と協力が必要です。 会費の振込みは、郵貯銀行が中心になっていますが、 銀行(横浜)振込み口座の方法も紹介しています。 同窓委員の方より、他の会員の方に会費納入の呼び かけをさらにしていただきます。

②寄付金協力者の増加願い

これまで、研究教育支援基金は、国大化学会設立 時の手持ち金を基金として9年間運営してきました。 新しい収入源はなく、初期基金を取り崩してきまし た。

平成26年度より、ドクターコーススタートアップ 支援制度発足と共に寄付金を全額研究教育支援基金 に組み込む方式になりました。

平成27年度寄付金実績は約52万円でした。

平均3名の博士課程進学者が毎年いると仮定すると、毎年約90万円の支出増が見込まれ、平成27年度末の残高見込みが約377万円でした。4年後には、基金が無くなるおそれが出てきます。これからの日本の将来を背負っていく横浜国大の学生をこれまで以上に応援しようではありませんか。皆様に、ご理解頂き会費納入と寄付金(一口千円以上)の協力をお願いいたします。

(文責 本間)